

第 7 1 0 回

I B C 番組審議会 議事録

－ 議 題 －

I B C テレビ

「日本のチカラ 第 4 6 5 回

俺らがつなぐヘルメット ～県立高校で学ぶ南部もぐり～」

2 0 2 6 年 5 月 2 6 日 (火)

(株) I B C 岩 手 放 送

第710回IBC番組審議会

1. 開催日時 2026年5月26日（火）午前11時

2. 開催場所 IBC岩手放送 Dホール

3. 委員の出席

委員総数	9名
出席委員	9名
出席委員の氏名（リポート含む）	
委員長	田代 高章
副委員長	熊谷 志衣子
委員	菊地 文彦
	高橋 司
	繁田 奈菜子
	柴田 千春
	後藤 高宏
	郷右近 勤
	龍澤 尚孝（リポート）

会社側出席者

眞下 卓也	代表取締役社長
八木 宏樹	常務取締役編成局長
兼平 宗彦	取締役メディアセンター長
亀田真太郎	報道制作部ディレクター
鹿野 真源	報道制作部プロデューサー

事務局

藤原 崇史	番組審議会事務局長
平澤 泰志	番組審議会事務局員

4. 議 題

IBCテレビ

「日本のチカラ 第465回

俺らがつなぐヘルメット ～県立高校で学ぶ南部もぐり～」

5月17日（日）午前6時～午前6時半 放送

5. 議事の概要

＜委員の主な発言＞

- 130年道具が変わらないヘルメット式潜水という特異な技術を軸に、その歴史的背景から現状、後継者の課題までを30分に凝縮した構成は無駄がなく、見応えがある秀逸な番組だった。次に繋げる、継承するとはこういうことを言うのかと考えさせられる番組だった。
- 番組の主軸を東日本大震災を機に高収入の現役ダイバーから母校教員へ転身した大向先生の生き様に置いたことが、番組全体に深みと説得力を与えた。プロの現場を知るからこそ生徒から先輩として慕われているとリアルに伝わった。
- 祖父のヘルメットを受け継いで海に向かう生徒のエピソードは、視聴者の心を最も強く掴む場面だった。祖父を海で亡くされながらも、それでもなお海へ向かおうとする佐藤さんの覚悟にはただただ感服するばかりだった。
- 「種市の海は祖父の愛した海に繋がっています」という締めのアレキシンのフレーズは印象的で、生徒の気持ちが良く表現できていると思った。
- ヘルメットの修繕業者が全国1社のみという現実や、県内の南部もぐり従事者が2名にとどまるという課題に触れつつ、今年度の入学志望者が大幅に増えているという明るい展望もバランスよく描かれていた。
- 教員に転身するのが簡単に実現できるものなのかどうなのかということを、少し取り上げてもらえると良かった。知りたい若い世代もいるのではないかな。
- 良い番組で、若い人たちに見てもらいたいので、再放送やもう少し見やすい時間帯にしてほしい。
- 気になった点として、エンドロールの表示速度が速すぎるとの指摘が複数あった。視聴者への配慮として今後の改善を求める声があった。